

■英国：大手電力供給事業者が CO₂ をビール製造者に提供へ

2018年8月10日の報道機関によると、電気事業者の Drax はかつて石炭火力を運用し、ほとんどをバイオマス発電へと転換したが、さらに取り組みを進めて排煙から分離した CO₂ をビール製造事業に使用する計画を進めている。Drax ではバイオマスを使って発電し CO₂ を分離・貯蔵するプロジェクトは欧州では初めての取り組みで、英国のビール醸造にとっても CO₂ の安定供給が可能になるとしている。ビールや炭酸飲料の製造過程では CO₂ を注入しているが、2018年6月、これまで CO₂ を供給してきた化学工場からの CO₂ 供給に支障が発生しており、英国内ではビール販売に制限が加えられていた。Drax の計画は今後数カ月でプロジェクトを開始し、1日当たり約1万8,000リットルのビール製造に使われることになる。英国ビール&パブ協会の CEO は「Drax との協働は将来新たな CO₂ 供給の可能性があり、CO₂ 不足が今後発生しないことを期待する」とコメントしている。